

授業改善推進プラン < 保健体育科 >

(保健体育) 科における平成29年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- 運動を確実にいき、設定したねらいに意欲的に取り組む生徒が増えてきた。
- 説明をきちんと理解し、粘り強く恒常的に取り組む姿勢を養うことが課題である。
- 忘れ物、見学をする生徒は減少傾向。

(保健体育) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none">○サッカーやバスケットボールのような、ゲームの要素を多分に含んだ集団競技は興味を示し積極的に取り組む。陸上競技や器械運動など個人種目では、個人の目標をはっきりさせると意欲的に取り組むことができる。○武道、相撲に関しては時間数を経過するごとに興味関心が高まり、意欲的に活動することができている。○自分の得意なものには意欲を示すが、不得意な種目に対しては取り組みの姿勢が低下する。
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none">○「関心・意欲・態度」については、全体的に意欲は高い。集合のけじめや準備体操の意識をより高く持たせたい。○「思考・判断」については、種目によって得手不得手があるが、概ね各種目の説明を素早く理解し行動に移していた。○「技能」については個人的な技能を他者と高め合いながら伸ばしていけるようになっていくことが今後の課題である。○「知識・理解」については、競技の題材によって理解の程度に差が出ていた。また、保健科目の用語の定着が今後の課題である。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 個人カードの工夫、グループノートの活用
→活動目標、到達課題をより細かく明確にし、個に応じた運動を確実に行わせる。
- 2 単元の学習内容の理解、各時限の目標の理解
→各時限のねらいを分かりやすく説明し、正しい練習の取り組み方を理解させる。

(保健体育) 科の授業改善策

- 忘れ物をさせないために、担任や教科係との連絡を徹底する。
- 基本的な集団行動の徹底を図る。授業開始時の整列、あいさつの基本的行動、説明時の聞く態度についての指導を繰り返し行い、活動内容を理解させる。
- スポーツテストのデータや個人カードを活用し、自己の能力を把握させた上で、自分の能力に応じた課題を設定させ、他と協力して工夫しながら練習を進められる態度や姿勢を養う。
- 実技の教科書や保健体育ノート・ビデオなどを活用し、技能の構造や理合、ルールへの理解を深め知識の確実な定着をはかる。
- 傷害や感染症、環境問題などを通し、自他の健康について具体的に考えさせる。